

令和5年度 政治経済研究 シラバス

教科名	政治経済研究
単位数	2単位（70時間）
学科・学年・学級	第3学年3・4・5・6・7・8組
使用教科書，副教材等	東京書籍「政治・経済」（政経311） 浜島書店 最新図説 政経

1、学習の計画

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
4月	第1章 現代の 政治	1節 民主政治の基本原理 ①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③現代の民主政治 ④世界のおもな政治体制	○民主政治の基本原理について、その成り立ちを歴史的な観点から理解し、また、民主主義を支える「法の支配」の原理についてその意義を学び、実社会を規制する法の意義や機能について学習します。 ○人権の意義と歴史的経緯および人権の国際化の現状について理解します。 ○民主政治の本質について歴史的経緯や脆弱性、今日的な課題について学習します。 ○民主政治の主たる形態である議院内閣制と大統領制について、その特徴を学ぶとともに、イスラム諸国の政治体制、および社会主義国の変遷や権力集中制をとる国々の現状について学習します。	○民主政治の成立を支えた出来事について理解し、また、「法の支配」と法治主義の違いを考えます。 ○人権保障の歴史的変化を考察します。 ○民主政治の脆弱性と今日的な課題について考えます。 ○政治権力の行使と国民との関係について考察します。
5月		2節 日本国憲法の基本原理 ①日本国憲法の制定と基本原理 ②基本的人権の保障	○日本国憲法の成立過程と三大基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について歴史的な経緯を踏まえながら理解します。 ○日本国憲法が保障する基本的人権について、平等権、自由権、社会権などに関する具体的な判例に則しながら、その特徴と課題について学習します。	○大日本帝国憲法と比較しながら考察します。 ○新聞記事などを利用して現実の問題や課題を憲法の理念との関係で考えます。

単元名	学習項目	学習内容	学習活動
	③ 平和主義	○日本国憲法の根本理念である平和主義について学習するとともに、現実の課題である日米安全保障条約にともなう沖縄の米軍基地の問題や自衛隊の現状などについて考察します。	○国民的判断が求められる憲法第9条や集団的自衛権の問題、有事法制や国際貢献のあり方について自分自身の問題として考察します。
6月	3節 日本の政治機構 ① 国会と立法 ② 内閣と行政 ③ 裁判所と司法 ④ 地方自治	○国会が「国権の最高機関」とされることの意義と三権分立との関係を理解します。また、二院制を採用している意義と特徴および衆議院の優越がどのように機能しているかについて学習し、日本の国会の権限と課題について考察します。 ○戦前と戦後の内閣の違いを考察した上で、内閣の機能や内閣総理大臣の権限を学習します。また、世界的な傾向である行政国家化と官僚制の問題を考え、あわせて日本の行政をめぐる諸課題と改革の動きについて理解します。 ○司法のあり方について、戦前と現行憲法下の共通点と異なる点を考察し、三審制のしくみや違憲法令審査権の意義、検察審査会の役割などについて学習します。また、国民の司法参加と司法改革の動きやさらなる課題について考察します。 ○民主政治における地方自治の意義とあり方について理解するとともに、国と地方との関係や課題、住民の政治参加のしくみと意義について考察します。	○憲法の条文を理解し、それが現実にどう機能しているかを学習します。 ○行政機構のしくみや権限について問題点に触れながら理解します。 ○人権保障の砦としての裁判所の意義について現実の判例に触れながら学習します。 ○国政との関係を調べ、地方財政などの課題を考察します。
	4節 現代政治の特質と課題 ① 戦後政治と政党	○民主政治における政党や利益	○政党の変遷につい

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
7 月		<p>②選挙と政治意識</p> <p>③世論と政治参加</p>	<p>集団の意義と役割について考察し、あわせて日本における政党の歴史的経緯について理解します。</p> <p>○「18歳選挙権」を念頭におき、民主政治における選挙の意義を理解し、そこから導き出される選挙の原則を考察します。また、選挙制度の類型とそれぞれの特徴を学習するとともに、日本の選挙制度が抱える課題や問題点について考察します。</p> <p>○世論の役割を考察し、世論形成に大きな影響を及ぼすマスメディアの現状とあり方について考えます。また、国民の政治参加の新たな動きについて考察します。</p>	<p>て調べ、その特徴について考察します。</p> <p>○一票の格差の問題について考察し、選挙制度のあり方について考えます。また、政党や候補者に対する模擬選挙を行います。</p> <p>○世論とマスメディアの関係や、インターネットの役割について考察します。</p>
		<p>5節 現代の国際政治</p> <p>①国際政治の特質</p> <p>②国際社会と国際法</p> <p>③国際連合の役割と課題</p> <p>④戦後国際関係の展開と日本</p>	<p>○国際社会の成立過程と主権国家と国際社会の関係について学習し、国際組織や地域的機構など主権国家以外の構成要素や新たに登場してきたNGOの役割について理解し、国際社会と個人との関係について考察します。</p> <p>○国際社会の秩序維持にとって、国際法がどのような役割を果たしているかを理解するとともに、国際法に基づく司法的解決の制度について考察します。</p> <p>○国際平和の実現のために形成された勢力均衡や集団安全保障のしくみについて理解します。また、その具体化である国際連合の成立過程やしくみ、役割と課題について学習します。</p> <p>○第二次世界大戦後の冷戦構造の変遷について学習し、冷戦の終結後もなぜ紛争などの問題が</p>	<p>○国際社会の特徴を考察し、秩序維持のためにどのようなしくみや組織があるかを調べます。</p> <p>○国際法の種類と、その実効性担保のための組織について調べます。</p> <p>○国際連盟と国際連合を比較し、改善点と今後の課題を検討します。</p> <p>○第二次世界大戦後の日本を含んだ世界の東西対立の流れを</p>

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
		<p>⑤ 国際政治の課題</p> <p>⑥ 地球環境と資源・エネルギー問題</p> <p>⑦ 国際社会における日本の役割</p>	<p>起きているのかについても考えます。</p> <p>○第二次世界大戦後の核軍拡競争の流れと非核化、軍縮の努力について学習し、地域紛争の現状と難民の問題や2001年以降拡散するテロリズムについて考えます。</p> <p>○地球環境問題と資源・エネルギー問題についてその現状を理解し、環境保護の取り組みと課題について考えます。</p> <p>○地球規模の課題に対応するには何が重要かを考察し、また、今日の国際社会における日本外交の課題について考えます。また、日本の国際貢献のあり方を考察し、人類の普遍的価値のために何が重要かを考えます。</p>	<p>整理し、冷戦終結後の現状を調べます。</p> <p>○なぜ軍拡競争が終焉に向かわないのかについて考察します。</p> <p>○地球環境問題の深刻さと身近な努力の重要性について考えます。</p> <p>○日本が果たしてきた国際貢献と、今後果たすべき事柄について考察します。</p>
9月	第2章 現代の経済	<p>1節 現代の資本主義経済</p> <p>① 資本主義体制の成立</p> <p>② 資本主義経済の発展と変容</p>	<p>○現代の資本主義経済がどのような歴史的経緯をへて成立しているのかを理解するとともに、資本主義経済の特徴についても理解を深めます。</p> <p>○資本主義経済の変容について理解を深め、社会主義経済の理論と現状について考察します。また、1970年代以降に台頭した新自由主義についても考えます。</p>	<p>○資本主義経済の成立と特徴を経済理論との関係でとらえます。</p> <p>○インターネットなどを利用して現代経済の特徴を調べます。</p>
10月		<p>2節 現代経済のしくみ</p> <p>① 経済主体と経済の循環</p> <p>② 生産のしくみと企業</p>	<p>○経済主体間の結びつきを考えたしながら、経済活動の循環について考察します。</p> <p>○資本主義経済を支える企業活動とはどのようなものかを理解するとともに、企業形態の中心である株式会社の特徴と今日的</p>	<p>○身近な経済活動にはどのようなものがあるか調べます。</p> <p>○企業の種類や規模について具体例をあげて調べ、それぞれの特徴を考察します。</p>

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
		③ 市場経済の機能と限界 ④ 国民所得と経済成長 ⑤ 金融のしくみと機能 ⑥ 財政のしくみと機能	あり方について考察します。 ○資本主義経済の核心をなしている市場の働きについて理解し、市場の失敗についても理解を深めます。 ○国民経済をマクロ的にとらえることの意義を理解し、物価や景気の変動が国民生活におよぼす影響についても考察します。 ○金融の基本的なしくみとともに銀行や中央銀行が果たす役割について理解します。また、金融の自由化など金融をめぐる環境の変化についても理解を深めます。 ○租税の意義や財政の基本的な役割を理解するとともに財政の課題と財政改革の必要性について考察します。	○市場における価格の役割を考察し、その重要性について理解を深めます。 ○一国の経済規模をはかることの意義と計算方法について学習します。 ○金利や金融機関の役割について理解を深めるとともに、金融の自由化と規制のバランスをどうとるべきかについて考えます。 ○財政のしくみや日本の財政問題について考えます。
1 1 月		3節 日本経済の発展と産業構造の変化 ① 経済再建から高度成長へ ② オイル・ショック後の日本経済 ③ 日本経済の現状	○第二次世界大戦後の日本経済復興期の諸改革や高度経済成長にいたる経緯と背景について理解します。 ○オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解し、バブル経済とその崩壊について考察します。 ○「構造改革」の特徴と影響について考察し、世界金融危機や東日本大震災後の日本経済の現状について考察します。	○父母や祖父母の時代の経済状況を聞き取るなどして調べます。 ○この時代を象徴する出来事について整理し、その背景について考えます。 ○「格差社会」といわれる状況について、その現状を調べ対策について考えます。
		4節 福祉社会と日本経済の課題 ① 公害と環境保全	○足尾銅山鉍毒事件以降、日本経済の発展とともに発生した公害問題と政府による公害への対策の動きについて学習し、環境	○公害や環境問題の現状を調べ、自分たちがどう行動すべきかを考えます。

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
		<p>②消費者問題</p> <p>③農業・食料問題</p> <p>④中小企業の現状と課題</p> <p>⑤雇用と労働問題</p> <p>⑥社会保障と福祉</p>	<p>問題の解決と循環型社会の形成に向けて何が必要なかを考察します。</p> <p>○消費者問題とは何か、またその背景に何があるかを考え、消費者主権の意義を考察します。</p> <p>○日本農業の現状と農業政策の変遷を理解し、食料問題や日本農業の課題について考察します。</p> <p>○中小企業の地位と役割について学習し、日本の中小企業の現状と課題について考察します。</p> <p>○労働問題と労働運動の歴史的経緯について学習し、労働者の権利や労働組合の意義について考察します。また、雇用環境の変化と現代の労働問題について理解します。</p> <p>○社会保障制度の歴史について外国も含めた発展の経緯について学習し、日本の社会保障制度の4つの柱について理解を深めます。また、人口減少社会の問題点や課題とその解決策について考えます。</p>	<p>○消費者問題の具体的な事例や消費者保護法制の現状を調べます。</p> <p>○日本の農業のあるべき姿について考えます。</p> <p>○活躍する中小企業を調べ、中小企業のあり方について考えます。</p> <p>○今日の労働環境についてさまざまな事例を調べ、労働基本権との関係や改善点を考えます。</p> <p>○日本の社会保障制度の現状と課題を調べ、少子高齢化が進むなかでの負担と給付のあり方について考えます。</p>
1 2 月		<p>5節 国民経済と国際経済</p> <p>①貿易と国際収支</p> <p>②国際経済体制の展開</p> <p>③発展途上国の経済</p>	<p>○貿易の意義、自由貿易の利点などについてリカードの比較生産費説をもとに理解します。また、国際収支のとらえ方や外国為替のしくみを学習します。</p> <p>○国際通貨体制やIMF-GATT体制の変遷について理解し、保護貿易主義の台頭と国際協調の動きについて考察します。</p> <p>○南北問題や南南問題の歴史的</p>	<p>○日本の国際収支の変遷について調べます。</p> <p>○第二次世界大戦後の国際経済のおもな出来事を整理し、世界経済の現状を考えます。</p> <p>○経済協力のあり方</p>

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
		④地域主義の動き ⑤グローバル化する世界経済	な変遷と発展途上国の経済発展の状況および南北格差の是正について考察します。 ○EUの成立過程と現状について理解し、ASEANやAPECなどさまざまな形態をとる地域的経済統合の動きについて考察します。 ○グローバル化の進展にともなうさまざまな経済環境の変化について考え、日本の役割について考察します。	について考察します。 ○EUの歴史的变化を調べ、整理します。また、地域統合が進む一方、それに抗する動きもある現状について考察します。 ○国際金融の現状を新聞記事などで調べます。
	第3章 現代社会の諸課題	* 1節, 2節で取り上げられているテーマのなかからいくつかを選択して学習します。		
1月		1節 日本社会の諸課題 ① 少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか？ ② 地域社会を活性化するにはどうすればよいか？ ③ どのようにして若者の労働環境を改善するか？ ④ 中小企業の活路はどこに？ ⑤ どうする？ 日本の「食」と「農」	○日本の政治や経済に大きな影響を与える少子高齢化について、どのような問題が起こるか理解し、望ましい社会保障のあり方について考えます。 ○地方分権の動きについて現状を理解し、地域社会が抱える問題について理解を深めます。また、その解決策について考察します。 ○若者を取り巻く労働環境の現状を理解し、フリーターやニート、非正規雇用の増加について背景や問題点を考察します。 ○悪化する中小企業を取り巻く現在の環境を理解します。また、中小企業が生き残り、発展する条件を考えます。 ○日本の農業の現状とあるべき姿について考察し、日本の農業を取り巻く環境をいかに改善すべきか考えます。	○社会保障において負担と給付の関係はどうあるべきか考察します。 ○地域社会を活性化するためにはどうすればよいかを考えます。 ○若年層の雇用に関する法制度を調べ、課題と解決策を考えます。 ○現在活躍する中小企業を調べ、企業が発展するために必要な条件を考えます。 ○日本の農業が抱える課題を整理し、未来をどう描くかをさまざまな観点から考察します。
2月		2節 国際社会の		

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
3 月		<p>諸課題</p> <p>①地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか？</p> <p>②経済援助は貧困を削減できるか？</p> <p>③パレスチナ問題とは何か？</p> <p>④地球社会で日本がなすべきことは何か？</p>	<p>○世界のエネルギー供給の現状と課題を理解し、原子力発電の動向について2011年の福島第一原子力発電所事故以後の動きを考察します。また、再生可能エネルギーの開発状況を確認し、省資源・省エネルギーの取り組みの必要性について考察します。</p> <p>○国際的な経済格差と貧困の現状を理解し、なぜ貧困がなくなるのかを考察します。また、国際社会による経済援助の現状とその問題点について理解するとともに、開発援助のあるべき姿についても考察します。</p> <p>○国際社会の課題の一つであるパレスチナ問題に焦点を当て、歴史的経緯や問題の所在、宗教対立の根深さなどについて理解を深め、解決の糸口について考えます。また、各地で起きている地域紛争にも触れて問題解決へ向けた共存のあり方を考えます。</p> <p>○現在の地球社会で実現すべき価値は何か、地球社会はその価値の実現のためにどのような状況のもとにおかれているか、日本にはそのためのどのような能力があるのかを考え、平和と公正な国際社会の構築に向けて日本のなすべきことを考察します。</p>	<p>○さまざまなエネルギーの特徴を調べ、原子力利用の是非について考えます。</p> <p>○国際機関による開発援助の具体的な内容を調べます。また、援助のあるべき姿について考えます。</p> <p>○紛争や対立の背景を詳しく調べ、解決の糸口はないか、考えます。</p> <p>○日本が戦後に行ってきた国際的な取り組みを整理します。また、日本のNGOが現在取り組んでいることについても調べます。</p>

2、評価の方法

(1) 評価の目的

評価は生徒にとっても授業担当者にとっても学習内容や指導内容を振り返り、自分自身の学習や指導の成果や課題を確認し、今後の学習や指導の改善につなげていく上で非常に重要なものです。このことをしっかり確認した上で、自分自身の学習活動に不十分な点があれば、その後の学習の改

善につなげるようにしましょう。そのためにも、評価の観点や評価の対象と方法および評定について十分に理解し、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底して、評価結果を生かすよう心がけることが大切です。

(2) 評価の観点

評価は学習で身につける力を次の四つの観点から把握するようにします。

<p>関心・意欲・態度</p>	<p>○現代の政治，経済，社会，国際関係などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち，意欲的に探究しようとしているか。</p> <p>○社会的事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけているか。</p> <p>○国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるため参加，協力する態度を身につけているか。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>○現代の政治，経済，社会，国際関係などにかかわる基本的な問題，人間にかかわる諸課題を考察し，それらの本質や特質，さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的，多角的に考察しているか。</p> <p>○社会の変化やさまざまな立場，考え方があることを理解した上で公正に判断しているか。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現しているか。</p>
<p>資料活用の技能</p>	<p>○現代の政治，経済，社会，国際関係などにかかわる基本的な問題や重要な課題にかかわる事柄に関する諸資料をさまざまなメディアから収集し，有用な情報を適切に選択・活用することができるか。</p> <p>○得られた資料や情報を効果的に活用し，社会の諸問題を探究する学び方を身につけているか。</p>
<p>知識・理解</p>	<p>○現代の政治，経済，社会，国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的，総合的に理解し，その知識を身につけているか。</p>

(3) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では，ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況を評価します。

イ 課題探究学習の際に課すレポートや長期休暇などに課す課題レポートを評価のための資料とします。課題の設定・探究学習を行う際には，「スキルⅠ 課題の設定と調査研究計画」「スキルⅡ 調査研究活動」「スキルⅢ レポートの作成」「スキルⅣ プレゼンテーションや討論の方法」「スキル plus」などを参考にしてください。

ウ 学習活動に取り組む態度や発表，討論などのようすを評価のための資料とします。

エ 自己評価，振り返りシートを参考とします。

(4) 評定について

評定は，上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。